

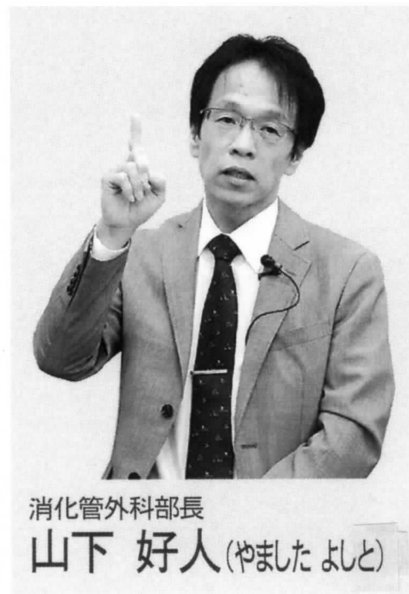
見なおそう!

みんなの健康

日本赤十字社和歌山医療センター
http://www.2.kankyo.ne.jp/nisseki-w/

No.23

胃がん 腹腔鏡手術の発展



消化管外科部長
山下 好人(やました よしと)

胃がんは、死亡数が男性で肺がんに次いで第2位、女性は大腸がん、肺がんに次いで第3位と非常に多いがんです。

最近、胃がんの発生は、胃の粘膜へのヘリコバクターピロリ菌(以下、ピロリ菌)の感染によることが明らかにされました。ピロリ菌に感染することで胃に炎症が起り、長い年月をかけて萎縮性胃

炎となり、その一部が胃がんになりま

す。早期の胃がんは、症状が現れないことが多いです。ただし、がんに伴う胃炎し、がんに伴う胃炎や胃潰瘍の症状として、不快感や胃もたれ、痛み、食欲不振、吐き気などが起こることがあります。ある程度進行しているがんの場合、胃の入り口や出口にできると通過障害をきた

し、嘔気・嘔吐(おうと)が現れます。がんからの出血によって貧血が起り、これによる息切れなどの症状から発見されることもありま

す。進行胃がんであっても強い症状が出ないことが多いので、少しでも気になることがあれば、胃カメラ検査をお勧め

します。早期胃がんでリンパ節転移がないと予

想される場合は、内視鏡的治療(胃カメラによる治療)が行われますが、それより進行すると手術が必要となります。

がん細胞はリンパの流れに乗り、周囲のリンパ節に転移していきますが、転移があるかどうかは、切除して調べないと分かりません。よって、胃がん手術では胃を切除するとともに、胃の周囲のリンパ節を必ず取り除きます。

胃がんの手術は、「腹腔鏡手術」が登場し、この20年くらいで大きく進歩しました。この手術は、

の小さな穴から内視鏡スコوپ(カメラ)と特殊な手術器具を挿入して、モニターを見ながら手術を行います。最新のハイビジョン3D内視鏡を用いますので、肉眼よりも精細な画像を得ることができ、さらに出血させないで組織を切開できる手術機器の開発により大きく発展してきました。腹腔鏡手術の利点は、リンパ節を徹底的に取り除けることと、ほとんど出血させないことで、従来の開腹手術に比べて手術の創(きず)が小さいので、患者さんの身体的負担も軽減

す。

われわれは、この腹腔鏡手術をいち早く導入して多くの経験を積むことにより、難度の高い進行胃がんにまで手術適応を拡大してきました。進行胃がんの幽門(胃の出口)側胃切除術だけでなく、より難度が高い胃全摘術や、さらには残胃がん、食道浸潤胃がん、抗がん剤治療後の症例など、さまざまなハードルを一つずつ越え、現在ではほとんど全ての胃がんに対し、腹腔鏡手術を行うことが可能

です。

胃がんは、早期に発見されれば、ほとんどの場合、根治可能です。進行があっても、手術と抗がん剤を組み合わせた治療により、多くの患者さんが再発することなく元気に過ごされています。ただし、手術の質が治療結果に大きく影響しますので、手術を受ける病院をしっかりと選ぶことが重要です。

何はともあれ、早期発見が最も大切です。できれば、1年に1度は、胃カメラの検査を受けましょう。ピロリ菌に感染している場合は、ぜひとも除菌されることをお勧めします。

早期胃がんでリンパ節転移がないと予

想される場合は、内

視鏡的治療(胃カメ

ラによる治療)が行

われますが、それよ

り進行すると手術が

必要となります。

がん細胞はリンパ

の流れに乗り、周囲

のリンパ節に転移し

ていきますが、転移

があるかどうかは、

切除して調べないと

分かりません。よっ

て、胃がん手術では

胃を切除するととも

に、胃の周囲のリン

パ節を必ず取り除き

ます。

胃がんの手術は、

「腹腔鏡手術」が登

場し、この20年くら

いで大きく進歩しま

した。この手術は、

の小さな穴から内視

鏡スコوپ(カメラ

ラ)と特殊な手術器

具を挿入して、モニ

ターを見ながら手術

を行います。最新の

ハイビジョン3D内

視鏡を用いますの

で、肉眼よりも精細

な画像を得ることが

でき、さらに出血さ

せないで組織を切開

できる手術機器の開

発により大きく発展

してきました。腹腔

鏡手術の利点は、リ

ンパ節を徹底的に取

り除けることと、ほ

んど出血させない

ことで、従来の開腹

手術に比べて手術の

創(きず)が小さい

ので、患者さんの身

体的負担も軽減

す。

われわれは、この

腹腔鏡手術をいち早

く導入して多くの経

験を積むことによ

り、難度の高い進行

胃がんにまで手術適

応を拡大してしまし

た。進行胃がんの幽

門(胃の出口)側胃

切除術だけでなく、

より難度が高い胃全

摘術や、さらには残

胃がん、食道浸潤胃

がん、抗がん剤治療

後の症例など、さま

ざまなハードルを一

つずつ越え、現在で

はほとんど全ての胃

がんに対し、腹腔鏡

手術を行うことが可

能

です。

胃がんは、早期に

発見されれば、ほと

んどの場合、根治可

能です。進行があ

っても、手術と抗

がん剤を組み合わせ

た治療により、多

くの患者さんが再発

することなく元気に

過ごされています。

ただし、手術の質が

治療結果に大きく

影響しますので、手

術を受ける病院をし

っかりと選ぶことが

重要です。

何はともあれ、早

期発見が最も大切

です。できれば、1

年に1度は、胃カメ

ラの検査を受けま

しょう。ピロリ菌に

感染している場合

は、ぜひとも除菌

されることをお勧

めします。